



「水辺へGO！」の利用者増加にむけて 環境保全活動をもっと身近に！

身近な川への「関心」を「行動」に変える

中央大学 商学部 西川ゼミ

(天野、岸田、関口、中田、西本、萩原)

認識のギャップ



■ 不満 / やや不満 (33.7%)

■ その他 (66.3%)

※東京都世論調査 (R4) 「水のきれいさ」

国土交通省の調査で「水質は改善傾向」にあるにも関わらず、
市民の「主観的な満足度」は低迷

行動への関心

28.0%

ボランティア活動に「関心がある」
河川に関する世論調査（東京都R4）

関心は、決して低くない！

環境保全やボランティア活動への意欲を
持つ人は、国民の約3割

この「関心」を「行動」につなげることが重要

| 関心と行動のギャップ

ボランティア活動への関心 (令和6年度)

28.0%

実際の活動率 (令和6年度)

21.3%

ギャップ

~7%

「関心」が「行動」にならない現状

環境保全に「関心がある」と回答した人と、
実際に「行動した」人の中には、
約7ポイントの差が存在

このギャップの原因は「身近な水辺に対する関心や
理解を深める機会の不足」にあると考える

提案の社会的意義



市民のQOL向上

身近な自然と
ふれあうことで
生活に潤いと豊かさ
をもたらす



テクノロジーによる 関心向上

特に若者世代に対し、
アプリが**環境問題に**
触れるきっかけを作る

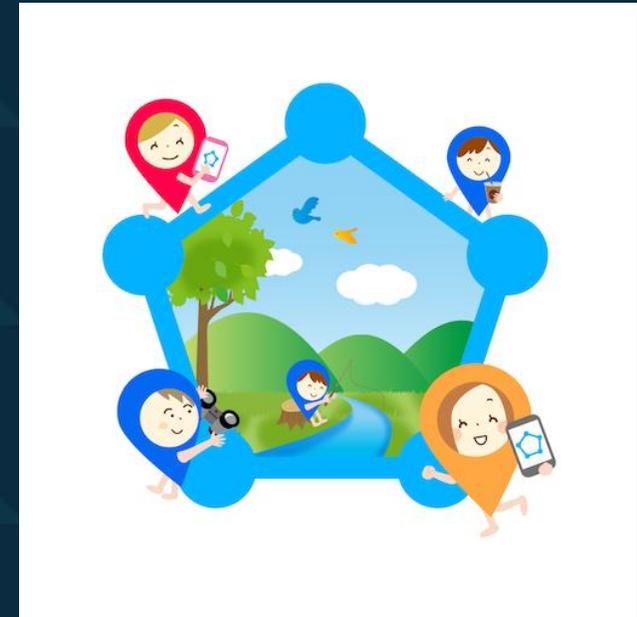


持続可能な まちづくり

市民による水辺の
価値の可視化が、
継続的な環境改善に
つながる

「水環境健全性指標」とは

環境省が定めた『水環境健全性指標』、
スマホ版アプリケーション『水辺へGO!』
として展開されている



「水環境健全性指標」の多角的視点



水のきれいさ



自然なすがた



ゆたかな生物



快適な水辺



地域とのつながり

優れた指標である一方、専門的であり、一般市民にはまだ認知度が低い

学生目線の「水辺へGO！」の強み



携帯1つで
利用可能



画像
レポート機能



遠隔から河川
情報の可視化



学校教育へ
の利用



市民啓発へ
の利用



さらなる普及には何が必要か？

環境保全活動をしている市民の方に「水辺へGO！」を体験してもらい、
意見を聴取した

ボランティア団体からのコメント

レジャー機能の追加

川・ローカルのルールの掲載
BBQ情報の掲載
禁止行為の掲載

防災・安全機能

ハザードマップの追加

その他

ボランティア活動の告知

例)適正人数を募集したい
天候による活動の有無

評価項目が多く、書きにくい。
→入力への意欲が湧かない

漂着ゴミ増加の懸念

図鑑機能の追加

動物図鑑
植物図鑑

評価に関する機能

ランキング機能
例:水辺の印象コメント機能

『水辺へGO!』の期待される追加機能

レジャー



図鑑の追加



ランキング機能



防災・安全



地域の活性化

水環境健全性指標の視点＋
利用者の関心を引きつける項目の追加



より広範囲の
市民の関心

予想される波及効果



ごみの減少

関心向上による自発的、
定期的な清掃活動の活発化、
ポイ捨ての抑止効果等



来訪のきっかけ作り

川や水辺の現状を正しく
知ること、散歩や川遊び
といった行動につながる



地域パートナーシップ

世代を超えたコミュニティ
を育み、持続的な活動につ
なげる

例,よこはま水辺レポート
八王子浅川水辺の楽校

SDGs達成目標



11. 住み続けられる
まちづくりを



14. 海の豊かさを
守ろう



17. パートナーシップで
目標を達成しよう

ご清聴ありがとうございました。

【主な参考文献】

- ・ 東京都「令和4年度都民生活に関する世論調査」
- ・ 内閣府「令和6年 国民のボランティア活動に関する意識調査」
- ・ 環境省「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」